

NEWS LETTER



岩手大学
岩手県立大学・岩手県立大学盛岡短期大学部
岩手県立大学宮古短期大学部
岩手医科大学
富士大学
盛岡大学・盛岡大学短期大学部
放送大学岩手学習センター
一関工業高等専門学校
岩手保健医療大学

～岩手の復興を人材育成から、今こそ連携の力で！～

2024. Mar
No. 31

Index

- ご挨拶 P.1
- トピックス P.2～4
 - いわて高等教育コンソーシアムシンポジウム
 - いわて学
 - 危機管理と復興
 - 地域課題解決プロジェクト「岩手大学・富士大学による沿岸地区卓球交流会」
 - 高大連携・ウインターセッション
 - 東日本大震災12年後の現状～陸前高田市視察～

ご挨拶

私はいわて高等教育コンソーシアムの運営委員になって4年目になりますが、会報に紹介していただくのは初めてなので、「初めまして」といったところでしょうか。ところが、本務校の任期が4年のため、今年度で退任ということになり、そのような者がこの場をお借りしてご挨拶申し上げるのもいかなものかと思われませんが、ご容赦のほどどうぞよろしくお願いいたします。(退任の挨拶?)

この4年間は最初の3年間でいわゆる「コロナ禍」で、本務校では就任早々キャンパス内閉鎖の、遠隔のと大混乱(大論争?)で始まりました。コンソの方では充て職で地域研究推進委員長を務めさせていただいたのですが、こちら3年間活動休止を余儀なくされ、今年度(辞める年)になって、ようやく活動を再開したところです。そんなわけで、予算も調査費という名目で、10万円しか取っていませんでしたが、その範囲内で、なんとか活動を再開することができました。

地域研究推進委員会では、以前震災復興支援をさせていただき、その後釜石地区の復興状況視察に訪れていたということで、今回は気仙地区、陸前高田の復興状況視察を企画し、日帰りで敢行いたしました。

率直に言って、岩手出身で、幼少の頃からこの辺をよく訪れていた私の目には、その大きな変貌に衝撃を受け、現地の方々のご苦労は想像を絶するものがあると感じられました。陸前高田市では教育長の山田市雄氏直々のお迎えをいただき、教育委員会学芸員曳地隆元氏のレクチャーを受け、震災で甚大な被害を受けた県指定有形文化財旧吉田家住宅主屋の再建状況を視察させていただきました。気仙大工の棟梁藤原出穂氏みずからに作業現場を案内していただいたのですが、実は全国的にも数少ない江戸時代からの伝統技法を受け継ぐ気仙大工の棟梁ということで、どれだけ誇り高く厳格な方かと、戦々恐々としていたのですが、これがとても親切で上品な方で、しかもユーモアがあり、楽しく視察することができました。考古学がご専門で岩手の文化財もフィールドにしている岩手大学の佐藤由紀男先生や、倫理学がご専門で住民の復興支援に関わった岩手医科大学の遠藤寿一先生、それに建築審査会で吉田家住宅の審査にあたられた富士大学の漆戸宏宣先生ら、ご参加いただいた先生方、各大学のコンソ担当職員の方々の積極的なご協力、それに現地の皆さんの温かい受け入れをいただいて、好評のうちに終えることができました。

委員長は変わりますが、地域研究推進委員会も次年度から本格復活します。今回は盛岡大学担当で、御所野遺跡での縄文・考古学シンポジウムを企画しています。どうぞご期待ください。



いわて高等教育コンソーシアム
地域研究推進委員長
盛岡大学 理事・文学部長
教授 齋藤 成夫

令和5年度 いわて高等教育コンソーシアムシンポジウム 「教養教育の現状と改革」

令和5年度いわて高等教育コンソーシアムシンポジウムは、「教養教育の現状と改革」をテーマに、令和6年2月3日(土) ホテルニューカーリーナアイリスを会場として開催いたしました。今年度のシンポジウムは、「教養教育の現状と改革」というテーマのもと、コンソーシアム各構成校からの報告並びにパネルディスカッションを中心としたプログラム構成で実施いたしました。

冒頭に、今年度のシンポジウム当番校である岩手大学の小川智学長より開会挨拶があり、テーマ設定の背景や趣旨等について述べられました。

次に、テーマにそって、コンソーシアム各校の教養教育の現状並びに諸課題等について、渡部芳栄氏(岩手県立大学高等教育推進センター准教授)、松政正俊氏(岩手医科大学教養教育センター長)、佐々木修一氏(富士大学経済学部教授)、佐藤貴保氏(盛岡大学文学部教授)、後藤尚人氏(岩手大学人文社会科学部教授)の5名より、報告が行われました。各大学での改革の事例や実施方針、また、今後の課題等について、それぞれの大学の特色なども踏まえながら報告がなされました。



開会挨拶 岩手大学小川学長

令和5年度
いわて高等教育コンソーシアムシンポジウム
「教養教育の現状と改革」

日時 令和6年2月3日(土) 14:30 受付開始
15:00 開会

会場 ホテルニューカーリーナ2階 アイリス

定員 150名 (※定員になり次第締め切らせていただきます)

申し込み 2ページ目を参照いただき、二次元バーコードもしくはメールでお申し込みください。お申し込み締め切りは1月29日(月)です。

シンポジウム 15:00～17:30

プログラム
● 開会挨拶
● 各構成校からの報告
● パネルディスカッション
● 閉会挨拶

情報交換会 18:00～19:30

● ホテルニューカーリーナ2階 ルビナス
※情報交換会(18:00～) ご参加の方は、当日受付にて参加費5,000円を申し受けます。

参加費 無料 (事前申込必要)

どなたでもご参加いただけます

いわて高等教育コンソーシアム事務局 (岩手大学教養教育推進部内) 〒020-8501 岩手県盛岡市上田1-1-1 電話 0196-621-6855

参加校 いわて高等教育コンソーシアム
岩手大学、岩手県立大学、岩手医科大学、盛岡大学、盛岡大学文学部、盛岡大学経済学部、盛岡大学工学部、盛岡大学農学部、盛岡大学薬学部、盛岡大学歯学部、盛岡大学獣医学部、盛岡大学看護学部、盛岡大学国際学部、盛岡大学環境学部、盛岡大学情報学部、盛岡大学芸術学部、盛岡大学工学部、盛岡大学農学部、盛岡大学薬学部、盛岡大学歯学部、盛岡大学獣医学部、盛岡大学看護学部、盛岡大学国際学部、盛岡大学環境学部、盛岡大学情報学部、盛岡大学芸術学部



岩手県立大学 渡部准教授



岩手医科大学 松政教授



富士大学 佐々木教授



盛岡大学 佐藤教授



岩手大学 後藤教授



シンポジウム後半のパネルディスカッションでは、岩手大学理事・副学長である喜多一美氏のコーディネートのもと、報告者5名がパネリストとして登壇し、この予測困難な時代における「教養」の在り方や、主体的な学びの質を高める教育プログラム等について意見を交わしました。コロナ禍を経て社会や学生に求められる教養や、教育の形が変容していることもあり、会場からも複数の質問が寄せられ、今後の取り組み・連携に向けての情報共有を図ることができ、大変貴重な機会となりました。



パネルディスカッションの様子

コア科目(必修)後期集中講義「いわて学」

今年度のいわて学Bは9月末から12月にかけて行われました。履修者数は14名と昨年度の倍になりましたが、すべて岩手県立大学の学生でした。

第1回授業では昨今のAIやデータサイエンスの状況とデータ分析・可視化の方法を学び、その後の10回の授業(オンデマンド)では、岩手県の様々な領域をテーマとしつつ、各種データから岩手県の現状と課題について学びました。

さらに、第12回から第15回までは対面で行い、岩手県の抱える課題とその解決策を検討し、3つのグループに分かれプレゼンを行い、「岩手県における新卒IT人材の働き手の現状と課題」、「若者を増加させるには」、「岩手県における熊被害の現状と解決策」をそれぞれテーマとして設定し、各種データ・資料を収集・分析しながら学生視点での解決策を導き出していたようです。

履修学生からは、「岩手のことをより深く知ることができた」、「データを複数使って検討していく方法を学ぶことができ、卒業研究等で活かしていきたい」などの感想がありました。

次年度は地域団体との連携を取り入れ、フィールドワーク×データサイエンスの授業を目指す予定です。多くの大学からの学生の参加をお待ちしています。



コア科目(選択)後期集中講義「危機管理と復興」

「危機管理と復興」は、地域リーダー育成プログラムのコア科目の一つで、危機管理や災害時の医療、防災、災害文化などについて学び、様々な状況に対応し得る能力と知見を修得することを目的とした講義です。

今年度の講義は、10月28日(土)～12月23日(土)の期間で全7回(1回2コマ)実施し、受講者は22名(岩手大学22名)でした。

講義は危機管理を始め、災害時の医療活動、防犯の現状と課題、石碑から読み解く災害の歴史、防災教育、震災遺構と災害文化など毎回異なるテーマで実施し、座学のほかにグループワークを多く取り入れ、意見共有や対話を通して学びを深めました。

12月17日(日)の現地研修では、田野畑駅-久慈駅を震災学習列車で移動しながら、三陸鉄道(株)社員から震災時の状況や復興の歩みについてお話を伺いました。続いて、久慈国家石油備蓄基地を外観見学した後、東日本大震災で被災し再建されたもぐらんぴあ水族館を見学しました。

この講義を受講した学生からは、「今までの震災学習よりもさらに専門的な内容を学べた。」「当事者の話を聞くことや、現地に行くことで学びを深めることができた。」「防災についてよく考えるようになり、自分でも避難所を調べたり、防災グッズを常備するようになった。」などの感想が寄せられ、有意義な学びの時間になった様子が伝わってきました。



岩手県立博物館 目時和哉氏による講義



講義「防災教育を考える」ワークショップの様子

実施日	講義内容	担当講師
10/28(土)	東日本大震災津波から10年～教訓から学ぶ危機管理～	越野修三(防災危機管理アドバイザー)
11/11(土)	災害時の医療活動	眞瀬智彦(岩手医科大学 災害時地域医療支援教育センター長)
11/18(土)	いわてにおける防犯の現状と課題	藤本幸二(岩手大学 人文社会科学部 教授)
11/25(土)	石碑が語る災害の歴史	目時和哉(岩手県立博物館 学芸第二課 専門学芸調査員)
12/16(土)	防災教育を考える	城下英行(関西大学 社会安全学部 准教授)
12/17(日)	現地研修(三陸鉄道(株)震災学習列車)	
12/23(土)	震災遺構と災害文化 これまでの授業の振り返りとまとめ	後藤尚人(岩手大学 人文社会科学部 教授)

地域課題解決プロジェクト

「岩手大学・富士大学による沿岸地区卓球交流会」

令和5年10月7日、8日、陸前高田市高田町の夢アリーナたかたと県立高田高校で、地域課題解決プロジェクト「岩手大学・富士大学による沿岸地区卓球交流会」を開催しました。

メンバー24名（富士大学12名、岩手大学12名）が沿岸地域の小学生・中学生・高校生とのスポーツ交流を通じて、地域の活性化を促し、高齢化が進む地域の活力回復に役立ちたいと考えて企画した活動です。

7日には小学生数名、中学校4校、高校3校、さらに釜石と盛岡の高校の参加があり、学生による技術講習会、中高生と学生との練習試合、さらに、岩手大学の「NEXTSTEP工房企画」に所属する学生が主導するユニバーサルスポーツの卓球バレー体験を実施しました。

8日は高校生と大学生との濃密な技術講習会と練習試合を行い、運営責任者の富士大学井上想さん（3年）は「東日本大震災から12年がたった今も、沿岸部では復興が進んでいない面がある。地域に笑顔を届ける企画をしたかった」と、岩手大学田浦充実さん（3年）は「複数の大学が協力して取り組んだことは良い刺激となった。今後、発展的な活動を継続したい」と語りました。実施後のアンケートから、①企画の内容や進行に工夫が不足 ②スポーツ交流だけでは沿岸地域の少子化や人口減少問題の解決には繋がらない ③参加者に応じた活動内容にする必要があるなどの課題が指摘されました。



令和5年度 高大連携・ウインターセッション

ウインターセッションは、県内の高校生が大学教育に対する理解を深め、明確な進学意識を確立することを目的として、毎年12月に実施している事業です。各大学における学部ごとの授業体験を12月25日（月）・26日（火）に、また、全体会を最終日の27日（水）に実施しました。昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、全体会はオンライン形式で行いましたが、今年度は盛岡市民文化ホール（マリオス）を会場に4年ぶりに対面形式で実施しました。

この全体会では、人文・社会科学分野、理学・工学・農学分野、医学・歯学・薬学分野に分けて、大学における学修内容を分野別に説明し、大学教育の全体像の理解を図りました。参加した高校生は533名（令和4年度は844名）で、皆、大変熱心に受講してくれました。

ウインターセッションで得られたことを将来の進路選択に、ぜひ活かしていただきたいと思います。



全体会の様子

東日本大震災12年後の現状 ～陸前高田市視察～

いわて高等教育コンソーシアム地域研究推進委員会は、新型コロナウイルス感染症のため令和2年度から令和4年度まで活動を休止しておりましたが、緩和に伴い、令和5年度より活動を再開することとなりました。

地域研究推進委員会では、発足当初より東日本大震災の震災復興に係る調査研究と各種支援事業を行ってきました。活動再開の第1回目となる今回は、そうした事業を引き継ぎ、令和5年10月6日（金）に震災12年後の陸前高田市の現状を視察して参りました。視察には地域研究推進委員会より10名が参加し、陸前高田市東日本大震災津波伝承館や県指定有形文化財旧吉田家住宅主屋を見学させていただきました。旧吉田家住宅主屋の見学では、気仙大工棟梁より「気仙大工左官の技で甞る仙台藩大肝入屋敷」と題し、約1時間30分にわたり詳しく現場を視察させていただきました。



陸前高田市教育委員会学芸員による講演



県指定有形文化財旧吉田家住宅主屋視察

また、教育委員会より学芸員の曳地隆元氏をお招きし「旧吉田家住宅主屋復旧の歩み」と題した講演を受け、現在と過去の陸前高田市と今泉について、旧吉田家住宅主屋の震災当時から現在の復旧状況についてのお話を伺うことができ、非常に貴重な機会となりました。

発行連絡先

いわて高等教育コンソーシアム事務局（岩手大学法人運営部総務広報課内）

〒020-8550 岩手県盛岡市上田三丁目18-8

TEL.019-621-6855 FAX.019-621-6014 [E-mail] ihatov5@iwate-u.ac.jp [URL] http://www.ihatov-u.jp/